

<ご参考> 中延二丁目旧同潤会地区の変遷



■建設当時(大正13年頃)の状況■

左図の青枠が、建設された当時の荏原住宅全体です。これに含まれない北西部分が現在の中延小学校で、その南側の赤枠が今回の事業の該当地区となります。

五差路を中心に伸びる5本の主要道路により街区割され、同心円状に広がるように計画された建物配置から、のびやかで広々とした田園都市の風景がイメージされます。

図出典: 洪洋社「建築写真類聚 木造小住宅」

※方位を合わせるために図の向きを回転

※青枠・赤枠は当社にて作図



■戦後間もない頃の状況■

東京の市街地は戦時中の空襲などで多くが焼け野原となり、品川区のこのあたりでも多くの建物が焼失しました。

青枠・赤枠は上図とほぼ同じ位置を示しますが、当事業該当地区の一部を除き、荏原住宅内の建築物はほとんど焼失していることがわかります。

写真出典: 国土地理院ウェブサイト

(1945～1950年頃撮影)

※青枠・赤枠は当社にて作図



■直近の状況■

戦後の復興が進む中、旧荏原住宅地区でも急速に新たな住宅が建設され、従来の建物配置とは全く異なる道路付で区画割が整備されました。

しかし、戦災で焼け残った同潤会の建物は戦後もそのまま残され、大きな通りに面した外側の敷地での建設が先に進みました。その結果、街区の奥では細い路地にしか面していない、実質的に建替えできない老朽家屋が残されることとなりました。

写真出典: 国土地理院ウェブサイト

(2007年以降撮影)

※青枠・赤枠は当社にて作図